小学校第5学年　社会科学習指導案

授業者　Ｔ１　教　　諭
Ｔ２　栄養教諭

１　単元名　　未来を支える食料生産「これからの食料生産」

２　児童及び地域の実態と単元設定の理由

（１）地域の状況

当校の位置する周辺地域では米やにんじん、きのこ、枝豆など数多くの農産物が生産されており、給食でも地元の食材を積極的に活用している。市内の給食施設はセンター化が進む中、当校は自校給食方式で給食を提供している。

（２）児童の実態

本学年は学習に対して意欲的に取り組む児童と消極的な児童との二極化が見られる。総合的な学習の時間や社会科の「未来を支える食料生産」の単元では、児童の関心が強く、気になる課題に対して追求している様子があった。しかし、全体的に食に対しての意識が低く、配膳後の給食を減らしたり、完食できなかったりする児童が多い。

（３）単元設定の理由

本単元では、日本の食料生産とその課題について取り上げている。日本の食料自給率や生産量の低下から、輸入が増加傾向になってきている。このような現状が続くと日本の生産者が減少してしまうことにつながる。日本の食料課題を解決するためには、国内の食料生産・消費を増やしていく必要がある。日本の食料生産の現状と課題についての学習を通して、子どもたちも消費者の一員として、家庭や自身の食の在り方を見直すきっかけになると考え、本単元を設定した。

３　単元指導計画（全４時）

時	主な学習内容	☆評価
1	・国内の食料輸入と食料生産の課題を知り、これから調べてみたいことを考える。	☆これからの食料生産や輸入に関して、調べてみたいことをノートに表現している。【思考・判断・表現】
2	・食料の輸入について、長所と短所、消費者と生産者の立場など多角的な視点で捉える。 ・国内の食料生産の課題と解決策を考える。	☆国内の食料生産の課題と解決策を考えることができる。また、食料確保をするためには、国内生産の役割が大きいことを捉えている。【知識・技能】

3 本時	・給食の献立は地産地消の取組をしていることに気付く。 ・生産者の思いを聞いたり、ペアで考えたりする活動を通して、消費者の一員として自分にできることをノートにまとめ、表現している。	☆給食の食料自給率が高く、地産地消の取組をしていることに気付いている。【知識・技能】 ☆食料生産の発展のために自分が消費者の一員としてできることを表現している。 【学びに向かう力・人間性】
4	・これからの食料生産の発展に向けて、自分にできることについて多角的な視点で意見をもつ。	☆食料生産の発展に向けて、自分にできることについて多角的な視点で意見をもつことができる。 【思考・判断・表現】

4　食育の視点

食に関する指導の目標					
食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
		○	○		

5　本時のねらい

・給食の献立は地産地消の取組をしているため、食料自給率が高いことに気付く。

・生産者の思いを聞いたり、ペアで考えたりする活動を通して、消費者の一員として自分にできることを考えることができる。

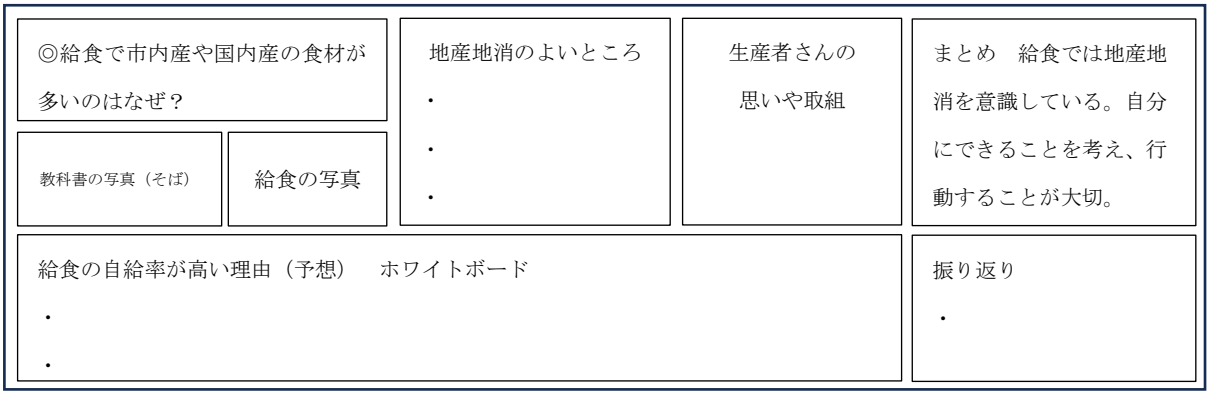
6　本時の展開

時間	学習活動	教師の働きかけ（T） 予想される児童の反応（C）	指導上の 留意点（○） 評価（☆）
導入 10分	1　前時の復習をし、学習課題をつくる。	T１：前回食料自給率について勉強しました。日本の食料自給率の特徴を覚えている？ C　：低かった。 T１：給食の食料自給率ってどうなんだろう。 C　：お米は市内産だったよね。 C　：高いんじゃないかな。 T１：給食の食材はどこから届いているのか予想してみましょう。 T２：答え合わせをしましょう。 T１：何か気付いたことはありますか？	○教科書の写真を提示し、日本の食事は輸入に頼っていることに気付く。 ○ロイロノートで、市内産、国産、外国産に分けて

		Ｃ　：市内産が多いね。 Ｃ　：外国産は少ないね。 Ｔ１：日本の食料自給率は高かったってことでいいかな？ Ｃ　：低い。日本は 40%くらいだったよ！ Ｃ　：自給率の半分以上は輸入だったよね。 Ｔ１：日本の食料自給率は低いのに、給食の食料自給率が高いのはなぜでしょう。	給食の食料自給率が高いことに気付かせる。
	課題　　給食で市内産や国内産の食材が多いのはなぜ？		
展開 25分	２　給食の自給率が高い理由を考える。	Ｔ１：給食の食料自給率が高いのはなぜでしょう。ペアで予想をしてみましょう。 Ｃ　：市内に住んでいるから市内産を選んでいる。 Ｃ　：地域の生産者さんのため。 Ｃ　：市内の食材がおいしいから。 Ｃ　：市内で食材を買った方が早く届くから。	○予想を立て、ペア→グループで意見を交流する。ホワイトボードでまとめ、黒板に提示する。
	３　栄養教諭の話を聞き、地産地消の取組について知る。	Ｔ２：給食では、「地産地消」を大切にしています。地産地消のいいところは、 ・新鮮なものが届く・環境にやさしい ・地元の生産者が近くにいる ・地域の活性化につながる 反対に輸入に頼るということは、 ・届くまでに時間がかかる ・排気ガスが出る・生産者は遠くにいる ・生産者が減ってしまうかもしれない ・輸入が止まった時、日本に食べものが届かなくなってしまうかもしれない	○身近な給食における地産地消の取組は、日本の食料生産の課題解決に寄与することを押さえる。
	４　地域の生産者の思いを知る。	Ｔ１：地域の生産者さんたちは、どのような思いで生産しているのでしょう。 Ｔ２：●●に住んでいる子どもたちに、●●のおいしさを知ってほしいという思いがありましたね。また、地域の食材をブランド化させた方もいました。 Ｔ１：地域の生産を増やすためには、地域の消費を増やすことも大切で、それが日本の	○地域の生産者の思いや取組を伝える。

		食料生産の発展にもつながりますね。給食だけではなく、私たち一人一人が消費者として、日本の食料生産の課題を解決するためにできることを考え、行動していきたいですね。	
	まとめ　給食では地産地消を意識して食材を選んでいる。		
まとめ 10分	5　本時の学習を振り返り、消費者の一員としてどのように食材を選んでいくか考える。	Ｔ１：給食の食料自給率が高い理由がわかりましたね。みなさんにもできることを考えてみましょう。 Ｃ　：できるだけ国内で作られたものを選ぶようにしたい。 Ｃ　：地域のものを選んで、農家さんを応援したい。 Ｃ　：地域の食材を選ぶように心掛ける。でも、安いから外国産を選ぶともある。 Ｃ　：家族に地域のものを選ぶように声をかける。	○振り返りを書けた人からペアで発表し、自分と違う考えの友達を３人見つける。 ☆本時の学習から、食料生産の発展のために自分が消費者の一員としてできることを考えることができる。（ノート、発言）

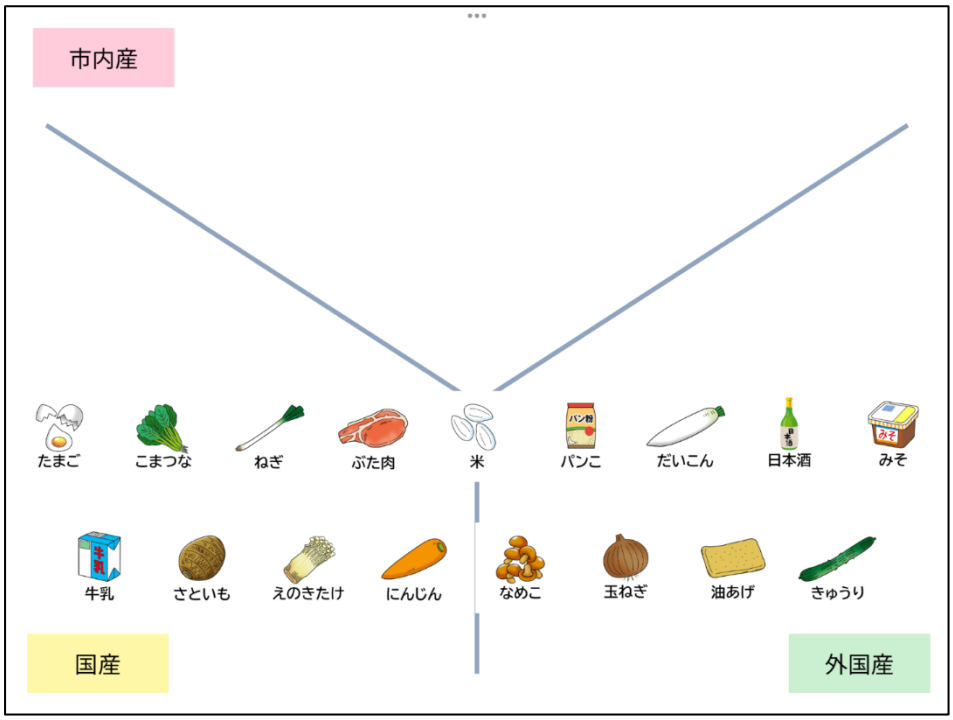
7　板書計画



8　取り上げる献立名（市内産、国内産、外国産）

・地元産コシヒカリごはん（米）
・牛乳（牛乳）
・きつねハンバーグ（豚肉、卵、油揚げ、玉ねぎ、パン粉）
・しょうゆの実ナムル（小松菜、にんじん、きゅうり）
・地元産野菜のみそ汁（みそ、大根、えのきたけ、なめこ、ねぎ、里芋、日本酒）

9　資料



・導入の「食材の産地分け」で使用したもの。
・ロイロノートで作成し、児童に配付した。

10　協議会記録

【授業者より】

・この単元で授業をするにあたり、この単元に栄養教諭が関わる意義や、栄養教諭として伝えられることは何かを考えた。

・振り返りの部分で時間を取り、子どもたちに考えさせる時間を確保したかったが、時間が短くなってしまった。

【参加者より】〇成果　△課題

〇授業中の子どもたちの発言やつぶやきから、日々の食育指導が子どもたちの身になっているということがうかがえた。

〇子どもたちが一生懸命授業に取り組んでいた。また、日本の食料自給率や、日本は輸入に頼っていることなど、これまでに学習したことをよく覚えていた。

〇食材の産地を分類する際や栄養教諭が生産者の方の思いを紹介する際、タブレットやモニターを活用することで、児童が視覚的に捉えることができていた。

△導入部分が長かった。食材の産地分類は事前に行っておく、答えを提示するだけにするなど工夫をすることで時間を短縮できるのではないか。

△導入部分で日本の食料自給率を示す際、給食の自給率がどれくらいなのかを数字で示せると比較がしやすいのではないか。

→事前に悩んだ部分であるが、どのように計算するのが妥当なのかわからず、数字で示すことができなかった。

△栄養教諭の説明が長かった。しかし、子どもたちはよく話を聞いていた。

△地産地消のよいところや生産者の声を板書に残すと振り返りが書きやすかったと思う。

【指導者より】

・子どもたちにとって身近な食事である給食を題材として取り上げたことがよかった。

・日本の食料自給率の低さは子どもたちに伝えていくべきである。

・45 分間の授業で伝えられることには限りがあるので、内容を精選したほうがよい。今回は地産地消に焦点を当てて、そのよさを伝え、輸入についてはその前後の時間に取り上げる方がよいのではないか。

・まとめは大人が話すのではなく、子どもたち自身に考えさせる。

・給食を漠然と食べ、平気で残してしまう児童もいる。少しでも給食の残量を減らすために、給食を通して食の大切さを教えていく必要がある。社会科で勉強していることも、給食とつなげて考えられるとよい。